

令和 5 年度

事業所名 : グループホーム 四季の郷

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0392500062		
法人名	社会福祉法人ふるさと福祉会		
事業所名	グループホーム 四季の郷		
所在地	〒029-4503 岩手県胆沢郡金ケ崎町西根北荒巻21番地19		
自己評価作成日	令和5年11月20日	評価結果市町村受理日	令和6年2月22日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・事業所理念について、職員全員で作成し日常の介護に活かしています。職員が情報共有し協力し合い、安心した生活を過ごしていただけるよう取り組んでいます。  
 ・日常生活の中で、想いに寄り添いタッチケア、回想法を用いた生活の支援や、精神的なケアを行っています。  
 ・五感で感じていただけるように季節の行事の実施、敷地内の畑での野菜作り、収穫して味わい、楽しんでいただいています。  
 ・今年はコロナウイルス感染対策を講じながら、法人の秋祭りを開催して、久しぶりに保育園児の踊りやボランティア団体の歌や踊りを楽しみました。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action\\_kouhyou](https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou)

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、JR六原駅にほど近く、民家が点在する地にある。敷地内には特別養護老人ホーム、デイサービスを併設する本部があり、常に連携・協力のもとで運営されている。これまでの理念を見直し「愛情を中心とする、ふれ合いや安らぎなど5つの花びら」で表現した理念とし、職員間で共有して日々の実践に繋げている。かかりつけ医による月2回の訪問診療や法人看護師による健康管理、薬剤師による処方説明も受けている。看取りを含む終末期対応は、本人、家族の要望に応じて今年2名を看取った。コロナ禍で面会が規制されている中、短時間での窓越し面会も出来るようになってきている。4年振りに法人の秋祭りが開催され、ボランティア団体や地域の保育園児による歌や踊りなどもあり、利用者、家族、地域の方々が一緒に楽しむことができた。さらに事業所内の企画として毎年恒例の「寿司パーティー(回らない寿司)」も含め、「利用者の笑顔と楽しみ」を日々考え工夫しながら、支援に取り組んでいる。

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和5年12月7日

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を目に触れる場所に掲示している。そして理念に基づき支援することを心掛けている。日常の支援についてお互いに振り返りを行っている。	これまでの理念を見直し、「愛情をもってその人らしさを大切に共に過ごす」と職員が話し合って決め、玄関や事務室に掲示している。毎月の職員会議で唱和し日々のケアに繋げている。常に振り返りを大切にしながら、年1度の法人による「自己評価表」において、取り組みの結果を振り返り次年度に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ひさしぶりに開催された法人の秋祭りに、地元の保育園児や、ボランティア団体の歌や踊りを楽しみ交流ができた。	町の広報紙は運営推進委員の自治会長が届けてくれている。近隣に民家は少ないが野菜等の差し入れをいただいている。コロナ禍前は、JA女性部のボランティアによる草取りや窓ふきがあったが、今は解散となった。4年振りに法人の秋祭りを開催したところ、ボランティア団体や地元の保育園児の歌や踊りがあり、利用者、家族、地域の方々々と交流を持つ事ができ、楽しむ事が出来た。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の家族から実情について話があった時に、理解や支援について助言している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で、利用者や支援についての状況を報告し、意見をいただいている。看取りについての理解をいただき、励みとなっている。	会議では、利用者の状況や支援等の報告に対して、委員から活発な意見や要望をいただいている。特に数年振りに実施した家族への満足度調査や看取りに対する家族からの感謝の言葉などの報告では、励ましの言葉をいただくなど職員の励みになっている。また委員からの意見をもとに、災害備蓄品は3日分を蓄えている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町の職員が運営推進委員として参加している。事業所の状況を伝え、指導、協力いただいている。	町の担当職員が運営推進委員で、事業所の状況報告や相談を行い、指導・助言を得ている。要介護認定申請時には町の保健福祉センターと連絡を取り、協力関係が築かれている。コロナ禍で途絶えていた毎月の介護相談員の来所も再開された。	

令和 5 年度

事業所名 : グループホーム 四季の郷

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間はリスク管理上玄関及び窓は施錠している。また、定期的に身体拘束委員会を開催して意見交換を行っている。職員会議でも職員同士確認・相談しながら支援している。	身体拘束廃止に関する指針を制定し、3ヵ月毎に法人主催の身体拘束廃止権利擁護委員会に各事業所から1名参加し、結果は職員会議で報告し職員間で共有している。日常の業務や職員会議の中で、スピーチロックやドラッグロックについて職員同士で確認し合い、相談しながら支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議や社内研修会を開催して、日常の支援の中での言動や虐待防止について全職員の理解・周知に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	社内研修会を実施しており、必要に応じて活用している。全職員が利用者の尊厳を尊重して利用者本位の支援に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際はわかりやすく説明し、不安や疑問点などを伺い、ホームでの生活や支援について説明し納得していただいている。利用料金の改定時には、文書で通知し、同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から利用者とのコミュニケーションを通じて意見・要望をくみとるように支援している。また、家族が来所持に日常の様子を伝えるとともに、意見を聴かせていただけるよう働きかけている。	利用者の要望は、日々の生活の中で聞き、職員間で共有を図っている。戸外に行きたいとの要望を受け、ドライブを兼ねて紅葉を見に出かけたり、利用者自身の手書きの暑中見舞いのはがきを家族に出してやり取りを楽しまれたりと、要望に合わせた支援を行っている。家族からは、面会等で来所した際や、月1回、居室担当者作成の手書きでのお知らせ後に伺っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常のケア提供において、職員が主体となり個々の意見や取り組みが実践しやすいよう職員会議や連絡ノートを活用して対応している。また、毎月の運営連絡会議で事業所の意見を報告して改善に努めている。	管理者は、人間関係がスムーズに行くよう環境設定を考えてヒヤリングをしたり、コミュニケーションの取り方を工夫したいとしている。職員それぞれ自己申告書に記入し目標を設定することで、やりがいや向上心が持てるようにしている。職員の意見・要望は適時検討して対応し、必要な場合には法人へ協議している。	

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 四季の郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得制度を整備しており、自己の目標を設定することで、やりがいや向上心が持てるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修や外部の研修会を活用し、全職員で知識や技術等を共有している。わからないこと等職員同士アドバイスをしたり、指導を行い業務に活かせるよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修に参加した際に他事業所の参加者と交流を深め事業所間でのネットワークをひろげている。コロナ禍のため、今年度は機会がない状態になっている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談時には本人、家族よりしっかりと話を聞き不安な点や要望などを伺い、できる限り情報を得ている。入居後は職員間で情報共有しながら安心して生活していただけるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との信頼関係を築くために、迅速かつ丁寧な対応、細かな情報交換を心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の要望を把握し、利用者の状態を理解した上で今必要なサービスを提供出来るようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と同じ目線に立ち、気持ちに寄り添った対応を心掛けている。また、共に生活し寄り添いながら家庭的な雰囲気を大切にしている。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 四季の郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来所時や毎月のお手紙で、利用者の様子を伝えている。利用者や家族の希望により、電話で会話していただき、家族との絆を大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の近所や馴染みの方の面会があり、会話が弾み、生き生きとした表情が見られた。また機会があれば面会交流の声掛けを行っている。	利用者の近所の方の面会もあり、話が弾んだり、生き生きとした表情を面会時に垣間見ることが出来た。法人の車を利用し、ドライブに出かけながら、利用者の家の近くを廻る等、馴染みの場所に行く機会を作っている。2カ月に1回来所している理容師が、馴染みとなっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人ひとりが穏やかに過ごしていただけるように、性格を把握し、テーブル席の配置を工夫している。利用者同士のコミュニケーションが取れる職員が橋渡しをしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院中も利用者家族との情報交換や要望相談に応じている。また、逝去された方の焼香に参列させてもらっている。		

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の生活や他者交流、表情、会話などの様子観察を行い、本人の意向にに沿うように職員会議などで情報共有し全職員が周知出来るよう努めている。また、居室担当制としており、より深く個々の利用者の希望、意向の把握が出来よう心掛けている。	居室担当制を取り、ほとんどの利用者は自分の思いや希望を伝える事が出来るので、職員は傾聴に努め、利用者の表情や仕草も大切に、より深く利用者の希望や意向を把握するよう心掛けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所以前に利用していたサービス事業所や家族、親戚等から自宅や施設利用時の生活の様子などを情報収集している。また面会時や日用品持参時に普段の様子を伝えるとともに生活歴や生活環境など家族とコミュニケーションを取りながら教えてもらっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	声掛けや見守り、一部介助など、入浴や整容、食事、排泄などで出来ることはご自身で行っていただいている。また、日々の健康チェックや様子観察から心身状態の把握に努めている。		

令和 5 年度

事業所名 : グループホーム 四季の郷

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	生活に対する意向を本人や家族にヒアリングを行い作成している。職員会議で対象利用者の課題や目標について全職員で話し合い介護計画を作成している。	モニタリングは計画作成担当者と居室担当が中心となって全職員で行い、家族の要望(転倒防止のため歩行訓練の重視など)を加味し、全職員で話し合って介護計画を作成している。見直しは、変化がなければ6ヵ月毎に行っている。家族にはその都度説明し承認を得ている。利用者をより知るため、センター方式の復活を考えている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状態や様子、援助内容など細かく記録し職員会議や申し送りなどで話しあい支援計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族に現在の利用者本人の状態や状況を伝え話し合いながら支援している。緊急時通院対応、看取り支援まで行き幅広く取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	図書館からの定期的な配本サービスや地域のコーヒーショップのパン販売で購入したものをおやつに出したりしている。利用者の楽しみとなっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	現在、入所者9名全員が町内の診療所の月2回の訪問診療を受けている。また往診や相談などにも医師に対応していただいている。法人所属看護師や薬剤師の訪問もあり医療連携体制は十分に確保されている。	利用者全員が法人・特養の嘱託医をかかりつけ医とし、月2回の訪問診療を受診している。皮膚科等の専門医へは、家族同行で受診している。日常の健康管理は法人看護師が来所して行い、薬剤師からは処方説明も受けており、医療連携体制は整っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人所属の看護師に個々の利用者の健康状態を報告相談している。体調不良や急変時には対応していただき指示を仰いでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院中、後も利用者家族との情報交換や要望相談に応じている。また入院先の医療機関にサマリーを作成し情報提供を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、終末期の説明を入所時、看取り時に家族等に説明を行い同意を得ている。また、訪問診療の主治医からも丁寧な説明を行っていただきガイドラインに沿ってケアを行っている。看取り後は職員全員で振り返りを行い、想いを共有し心のケアを行っている。	重度化及び終末期に関する指針、看取りに関する指針を作成し、入居時に本人や家族に説明し同意を得ている。過去6、7名の看取りを行い、今年度は2名の看取りを行った。その際、かかりつけ医による家族への説明と、法人の看護師の協力による医療連携も図られ、家族からは安心感を持って受け止められた。看取り後は、職員のケアを考え、職員全員で振り返りを行い思いを共有している。	終末期には医師が家族に説明し、法人看護師の協力もあり、医療・看護体制は充実している。看取り後は全員で振り返りを行うなど細やかな対応がなされ、家族の安心・満足に繋がっている。利用者や家族のニーズに応える終末期ケアを今後も継続される事を期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当普及員による救命講習をほぼ全職員が行い初期対応の再確認を行った。また、事故発生時の対応を分かりやすく作り直した。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、夜間、昼間を想定した火災訓練を隣接法人事業所と合同で行っている。訓練終了後に課題についての話し合いを行っている。	年2回、隣接の同一法人事務所と合同で避難訓練を行い、消防署員の立ち合いもあり、講習で「大きな声で伝えるように」との指摘を受けている。有事には玄関と裏口から避難し、法人の職員の応援を得るとしている。備蓄は、食料、飲料水、缶詰、レトルト食品等3日分を蓄えている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の利用者の性格を日々のコミュニケーションや生活歴から把握し、自尊心を損なわないケアに努めている。また、居室に暖簾を設置してプライバシーの確保を行っている。	個々の利用者の性格を日々のコミュニケーションや生活歴から把握し、自尊心を損なわないケアに努めている。居室入口に暖簾を掛けてプライバシーの保護に努め、トイレ・入浴時の支援では羞恥心に配慮している。	「愛情を持ちながら適切な対応(言葉遣い)」に努めているが、全職員に浸透していない場合には、口頭だけでなくロールプレイや映像の活用等の工夫をすることを期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者とのコミュニケーションの中で意思決定ができるように声掛けをしている。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 四季の郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者が希望する洗濯たみや茶わん拭き等家事を提供希望に沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	蒸しタオルを手渡したり髭剃りの手伝い、爪切りの介助をする等必要に応じて介助している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	敬老会の料理は赤飯・天ぷら・刺身・煮物等利用者様の好みの物を調理し手作り弁当にお出したところ、大変好評でほぼ完食された。又10月に収穫祭も行い喜ばれた。	献立は当番の職員が冷蔵庫の中の食材を用い、利用者の希望に沿ったものを作り提供している。常に「一汁三菜」を考え調理をしている。敬老会では利用者の好みを取り入れ、赤飯・刺身・天ぷら・煮物なを提供して喜ばれた。利用者は片付けや茶わん拭き、テーブル拭きなどできることを行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	季節の野菜を使い栄養バランスの取れた食事を提供、歯が無かったり胃が弱い方にはおかゆを提供する等食べやすい形を出している。水分量を確保するためにお茶の種類を変えたり摂取しやすい工夫をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	義歯洗浄等出来る方にはブラシを手渡し見守りを行っている。できない方には洗浄の介助をしている。本人の力に応じた介助をしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録表を確認しながら声掛けや誘導を行っている。それぞれの様子に合わせた援助を行い出来る事は認め見守り、さり気ない介助でやろうとする気力を継続出来るようにしている。	排泄をチェックし、記録表をもとにそれぞれの利用者に合わせた誘導や声掛けを行っている。トイレでの自立排泄を目指して支援に努めている。布パンツは2名、他はリハビリパンツ使用で、夜間居室でポータブルトイレを使う方は1名である。入居前はオムツを用いていたが、入居後リハビリパンツに改善された方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操やレクリエーションを行い体を動かしたりオリブオイルを使用したりして予防している。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 四季の郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の希望に合わせてたり体調に配慮したりしながら気持ち良く入浴出来るようにしている。入浴中の会話や季節を感じられる工夫を楽しんでいただいている。	週3回午後入浴を基本に、利用者の希望や体調に配慮し弾力的に対応している。入浴を嫌がる方には、無理強いをせず、時間を変えたり、声掛けをして気分転換を図ってから入浴を勧めている。異性介助を嫌がる人はいない。季節に応じ菖蒲湯や柚子湯とし利用者は香りを感じ取り喜んでいる。入浴中は職員との会話を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の状態に合わせて安心して休んでいただける工夫をしている。眠れない時は、タッチケアや寄り添い話を聞いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬防止の為複数の職員で声掛け確認を行い、確実に服薬できるよう、職員本位ではなく利用者の状態に合わせた服薬介助を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの出来る範囲で洗濯物干しやたたみ方、食器拭き等を行っていただき満足感を味わえるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	体調が悪い方がいる為に遠足やドライブには出られなかったがホームの庭でお茶(ガーデンスイーツ)を楽しむ。花を愛でたり会話を楽しんだりと充実した時間を過ごす事が出来た。	穏やかな日には、施設周辺の散歩や庭でおやつを食べ、畑の野菜作りを楽しんでいる。コロナ禍で外出制限が続いていたが、ドライブを兼ね、秋の紅葉狩りに出かけた。家族と一緒に外出される方も少しずつ増えている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出出来る機会を徐々に増やしていきたい。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 四季の郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や懐かしい友人との会話を出来る機会を増やしていきたい。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	空間だけではなく食事を通した季節感も取り入れたい。	共用スペースにはテーブルが3台、窓際にソファが置かれ、利用者は思い思い好きな場所に座り、時間を過ごしている。室温はエアコン床暖房、加湿器で適温に管理されている。壁面には、季節感が感じ取れるようにツリーが飾られたり、利用者が貼り絵をした干支の絵や浮世絵が飾られ、温かい雰囲気を感じ取られ、居心地よく過ごせるよう工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者が慣れ親しんだ空間作りを一緒に作り上げ毎日安心して過ごせるように思考等耳を傾け寄り添い共に生活出来るよう心がけて行きたい。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の好みや希望を取り入れ、更に季節感を感じて頂ける空間作りに努力していきたい。	居室は、床暖房で、介護ベット、マットレス、掛け布団、クローゼット、洗面台が備え付けられ、テレビ、ラジオ、タンス、衣装ケース、机など慣れ親しんだものを持ち込み、家族写真やシールを貼って作成したツリー、塗り絵をもとに作ったカレンダーなどが飾られている。居室の入口には、目隠しを兼ねた暖簾が下げられ、名前の書かれた表札もあり、自分らしい落ち着いた雰囲気の居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	角がある場所ではお互いに声を掛け合う。又視界に入りにくい場所には物を設置しないようにする。		